

校長通信(第3号)

令和6年9月6日
東京都立田無高等学校
校長 長嶋 浩一

1 第2学期始業式 校長講話

☆はじめに

台風10号の影響と思われる8月29日(木)の大雨のため、格技棟の入口が水浸しになりました。翌朝30日(金)早い時間から雨の中登校していた陸上競技部、女子バレーボール部の生徒が水かきや床の拭き掃除をしてくれました。また、その後何度も何度も今日まで同じ場所が浸水し、今度は柔道部の生徒が一生懸命復旧作業をしてくれました。対応に当たってくれた部活動の皆さん、どうもありがとう。

☆オリンピックを観て感じたこと

フランスのパリで開かれた、第33回夏季オリンピック競技大会が閉幕しました。日本選手団は、金20、銀12、銅13、計45個のメダルを獲得しました。これは、海外で開催されたオリンピックでは最多数となり、中でも、金メダル20個は国別で3位、総数では6位という快挙です。笑顔でインタビューに応じる勝者の言葉の内容には、共通点があります。

1(金、銀、銅と、その人の)納得のいくメダル獲得は、自分だけの力だけでできたわけではありません。

2 仲間、チーム、家族の支えがあったからこそ、成し遂げることができました。

3 今まで支えてくれたすべての人に感謝し、この勝利(メダル)を捧げます。

自分を過信せず、謙虚な気持ちを持ち、感謝の気持ちを表す選手の姿に感銘を覚えます。これは、スポーツマンにとって最も大切なことではないかと思います。

パリオリンピックは夏の大会では2大会ぶりに観客が戻り、本来の盛り上がりを見せる一方で、残念なこともいくつかありました。その一つが、SNSを通じた個人への誹謗中傷です。陸上の競歩では女子の代表2人が混合リレーに専念するため個人種目を辞退したことをめぐり誹謗中傷が相次ぎ、選手が自身のSNSで「たくさんの方からの厳しいことばに傷ついた。このようなことが少しでも減って欲しい」と悲痛な思いを訴えました。このことを受け、JOC＝日本オリンピック委員会は異例の声明を出し、行きすぎた内容に対しては警察への通報や法的措置も検討する姿勢を示す事態となりました。

バレーボール男子日本代表がイタリアに逆転負けした際にも、誹謗中傷が相次ぎました。日本バレーボール協会の川合俊一会長は、「怒りに任せた暴力的なコメントやアスリート本人の尊厳を傷つけるメッセージだ。見過ごすことはできない」と、配慮のある対応を求めました。

結果だけをみて個人を非難する内容をみると、とても心が痛みます。きっとどの選手も勝利を目指して努力を積み重ねてきたことでしょう。それでも勝者もいれば敗者もいるのです。ほんの一握りの勝者と大多数の敗者です。勝負はほんの一瞬で決まっていきます。積み重ねてきた苦労やプレッシャーの大きさに比べたら、本当に小さなものです。敗れて本当に残念で悔しいと思っているのは選手自身ではないでしょうか。

私たちは誰もが心にとめておかねばなりません。悔しさの中にこそ、明日へと繋がる大切なことがあるのだということを。そして、そこから得るものは、勝つことよりもずっと大きなものかもしれません。課題は課題としてうけとめ、今後に繋げて改善を図っていく、そのプロセスがとても重要なのです。

誹謗中傷は言葉の暴力であり、決して見過ごすことはできません。勝者を称え、参加するすべてのアスリートに敬意を払う、そんなオリンピックであってほしいと思います。この構造はオリンピックだけでなく、学校生活にも当てはまります。部活動の試合やコンクール、文化祭・体育大会・球技大会等でも、皆さんが競争や勝負をする場面はたくさんあります。勝ち負けの結果だけでなく、そのプロセスを通して得られる心の成長が何よりも重要です。皆さんには、お互いを尊重し、高め合うことのできる、田無高生でいてほしいと思っています。

2 第41回「田無高祭」に向けて

今年の文化祭は初日が限定公開、二日目が一般公開となります。スローガンは「チーム田無～民度をあげて、口角あげて～」です。開会式は会場の都合等により、オンラインで開催することとなりました。それに先駆け、実行委員の生徒さんからインタビューを受けました。

開会式で生徒の皆さんに伝えようと思うことは、以下のとおりです。

1 本校生徒の印象

明るく、素直な生徒であるという印象を受けました。特に、本校に着任した4月当初、元気でさわやかな挨拶ができる素晴らしい生徒がたくさんいることに感銘を覚え、この良さを伸ばしていきたいと思いました。

2 生徒はどのような文化祭をつくっていくと思うか。

学校は生徒が主役です。主体的に考え、工夫を凝らし、自分たちはもちろん、参加者すべてが楽しむことのできる文化祭をつくっていかれることを期待しています。

3 文化祭を通して生徒が学べることは何か。

当日だけでなく、準備から片付けまでが文化祭です。華やかな部分だけでなく、地道な活動の積み重ねがあってこそ、発表の場が引き立つのです。そのことを忘れずにいてください。文化祭に限らず、学校行事では、クラスや所属団体の全員が協力し、お互いを思いやりながら、より良きものを創り上げていくことに大きな意義があります。また、そこで培った信頼関係や、あきらめずに最後までやり遂げた達成感は、今後の皆さんを支える原動力となることでしょう。

4 今回の文化祭における思い

行事に係る様々な制限が緩和され、広く公開されるに至った今年度、十分な経験のないことにも挑んでいく必要があったことでしょう。これまでの努力に敬意を払うとともに、皆さんの取り組んできた成果を十分に発揮してもらえたらと思っています。

また、今年度は初日の公開時間後、在校生を対象とした「中夜祭」を実施することになりました。中心となる生徒の皆さんが、熱い思いをもち、自ら考え企画するとともに、ルールを設定し、協力して行事を創り上げようと頑張ってきたからこそ、実現に至ったのです。

様々な意味で今年が再スタートの年となります。ここから新たな伝統を積み重ねていってください。

5 生徒の皆さんへ伝えたいこと

結果としてうまくいくことも、いかないこともあるでしょう。しかし、結果がすべてではありません。取り組んできたプロセスにこそ価値があるのです。素直に成功はみんなで喜び、課題は課題として受けとめて改善を図り、今後の成長に繋げていってほしいと思います。